

地域支援コーディネーターが配置されている地域自治組織

- ▶ 池月地域づくり委員会(平成28年10月開始)
- ▶ 鳴子まちづくり協議会(平成28年11月開始)
- ▶ 清滝地区振興協議会(平成29年4月開始)
- ▶ 松山まちづくり協議会(平成29年4月開始)
- ▶ 岩出山地域づくり委員会(平成30年2月開始)
- ▶ 高倉地区振興協議会(平成30年5月開始)

②関係者のネットワーク化③
ニーズとサービス提供主体の
マッチングなどを調整します。
住み慣れた地域で生き生き
と暮らし続けることができる
よう、すでにある地域の資源
(宝)を生かし、地域のコミュニ
ティを活性化して、地域全体
で支え合える体制をコーデ
ィネーターがつくっていきます。
この支え合いの仕組みを地
域で取り組みたい場合は、社
会福祉課地域包括ケア推進室
(☎6012)へお問い合わせ
ください。

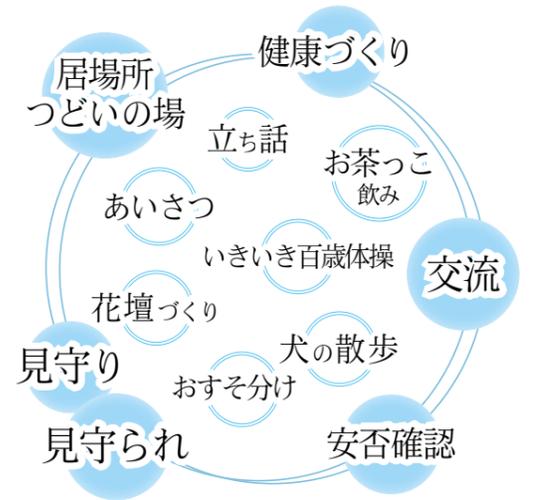


◀ 昨年11月に開催した「いきいき百歳体操大交流会」。各地で行っているいきいき百歳体操の参加者、高齢者の介護予防を呼びかける活動サポーターなど、約150人が一堂に会しました。

市では、地域住民が主体となつた生活支援・介護予防サービスの充実を目指し、「生活支援体制整備事業」を実施しています。行政主導ではなく、地域の実情に合わせて「地域の支え合いの仕組み」をつくるために、地域自治組織(まちづくり協議会など)の希望により、地域支援コーディネーターを配置するものです。
コーディネーターは、関係者のネットワークや組織などを活用しながら、①資源開発



▶ 地域で支え合うため、活発な話し合いが各地で行われています。



生活支援体制整備事業

地域とともにつくる

年を気にして消極的になつては
人生楽しくない

市内各地域で、健康増進や介護予防などを目的としたお茶飲み会やサロン、いきいき百歳体操などが開かれ、気軽に仲間と集う場が広まっています。



こうご
佐々木 孝伍さん(89)
(古川地域清滝地区)

週に1度、公民館で行われる「いきいき百歳体操」を楽しみにしている佐々木さん。「生まれ育った清滝で、できるだけ介護の世話にならないように過ごしたい」と話してくれました。

佐々木さんは農業を営み、老人会活動や地域のボランティア活動にも参加してきました。公民館事業の一環で始まった「いきいき百歳体操」に、老人会活動で公民館と関わりがあった佐々木さんは、まわりの勧めもあり参加するようになりました。初めは思うように手足を動かさなかったけど、練習を重ねるうちに楽しくなってきたそうです。足腰の痛みが改善され、体力が維持されていると言います。

「地域社会のつながりは年々薄くなってきている。百歳体操で皆さんの仲間に入り、そのおかげで長生きをしている。よき友と話し合い、大いに笑うことが生きがいになり、長生きの秘訣になる」と、感謝しているそうです。

「高齢者になつても、住み慣れた地域で、できるだけ元気で暮らすためには、気軽に仲間と集えるおしゃべりの場が必要。自分の年を気にして消極的になつては人生は楽しくない。いくつになつても夢を持ち、その日その日を楽しく生きることの積み重ね。今は若い人もいつかは老人になる。胸を張って生きていたい」と、心が晴れ晴れとする話をしてくれました。

地域を見守りながら見守られている

お茶飲み会での交流や、いきいき百歳体操での健康づくりなど、わたしたちが暮らしの中で営んでいることが、地域での見守りや支え合いの仕組みにつながっていきます。

古川地域の高倉地区振興協議会では、今年5月から事業を開始し、地域支援コーディネーターを配置。地域の人と人をつなぎ、高齢者にやさしい地域づくりを進めています。

高倉地区では、さまざまな地域課題に対応するため、昨年からワークショップを行い、地域づくりの必要性を話し合ってきました。

どのように住みよい地域をつくっていくかの話し合いの中で、公民館で行っている「いきいき百歳体操」やサロン、お茶飲み会など、これまで行ってきた取り組みそのものが、今、市で進めようとしている地域包括ケアであることがわかってきました。

「今ある事業を包括ケアに位置付けて地域の将来像を描いていく」。みんなの声を生かし大切にした地域づくりを目指しています。

地域支援コーディネーターの高橋みゆきさんは、高倉地区に嫁いで10年。見渡すかぎり田んぼの景色ですが、のどかで子どもを育てやすい環境だと感じているそうです。

高倉地区で生活支援体制整備事業(地域包括ケア)をスタートするにあたり、地元の行政区長から高橋さんに声がかかりました。市や県の研修を受け、コーディネーターの役割は、包括ケアは一人で

はなく、支え合いで地域のことを見守り見守られ成り立っていくもの、みんなで作っていくものだとことを学んだそうです。

「住民の立場だと自分のことしか見えず、地域の誰かが何かをやっているんだとしか捉えられなかった。実際に携わってみると、みんな公民館に来ることが楽しみで、それが包括ケアや見守りにつながるんだと感じた。皆さんから話しかけられて、とても温かさを感じる。わたしも、その温かさを地域に還元したい。壁のない、みんなの顔が見える地域になれば良いです」と話してくれました。また、「気軽に集まって話をして、いろいろな意見からみんな地域をつくっていきいたい」と笑顔で話してくれました。



地域支援コーディネーター
高橋 みゆきさん
(古川地域高倉地区)